

第17回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表 多チャンネル放送を取り巻く環境の変化を意識した意識した結果に

多チャンネル放送研究所（所長：音 好宏）は、第 17 回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。本調査は、同研究所が（一社）衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送市場の現状と見通しについて年 2 回実施しているものです。

本調査では、『現状』、『1 年後』、『2 年後』という 3 つの時点について、会員各社が多チャンネル放送市場の動向をどのように捉えているかを調べようとするものです。

調査時点が 2015 年 11 月で、『1 年後』は 2016 年後半、『2 年後』は 2017 年後半になります。

今回の調査は、前回（2015 年 5 月調査）の結果に比べ、今後の先行きに対する不透明感がやや強まっていることがわかりました。このような傾向は、自社チャンネルだけではなく市場全体の動きに対する見方と一致し、今後の各チャンネルにおける経営課題が市場全体のあり方と密接に関係を持ち、課題解決が業界全体に共通するものであると考える事業者が少なくないことがわかりました。

調査時点は、動画配信サービス「Netflix」が日本でのサービスを開始した直後であり、また、「ケーブル 4K」が開始される直前でもありました。多チャンネル放送を取り巻く環境の変化が、マーケットに影響を与えることも意識した結果と考えられます。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に本調査を実施し、会員各社における多チャンネル放送市場の経営戦略に資することが出来れば幸いです。

なお、調査結果については当研究所ホームページでも掲載しているので参照下さい。

→ <http://www.eiseihoso.org/labo/release.html>

調査結果の概要

1. 自社チャンネルの加入者動向については「横ばい」との意見が多い

自社チャンネルの全体的な加入者動向としては、『現状』では「減少」(43.3%)が最も多く、続いて「横ばい」(35.6%)「増加」(20.0%)の順となっている。

また『1年後』については「横ばい」(42.2%)が最も多く、「減少」(40.0%)、「増加」(16.7%)、『2年後』も「横ばい」(44.4%)、「減少」(41.1%)、「増加」(14.4%)の順となった。

「減少」だけで見ると『現状』では43.3%と最も多いものの、『1年後』『2年後』は「横ばい」が「減少」を上回る結果となる。一方、「大幅増」「増加」を合わせた「増加傾向」とする回答は『現状』『1年後』『2年後』それぞれ20.0%、17.8%、14.4%と年を追うごとに少なくなっている。

2. 多チャンネル放送全体の加入者動向は、自社チャンネルと連動

前回調査(2015年5月)では「大幅減」「減少」を合わせた「減少傾向」とする回答が前々回調査(2014年11月)より『現状』『1年後』『2年後』いずれも縮小していたが、今回調査では、再び「減少傾向」が4割以上に拡大、ほぼ前々回並みの結果に逆戻りしてしまっている。また、「大幅増」「増加」を合わせた「増加傾向」についても、自社チャンネルの加入者動向とほぼ連動しており、各事業者が加入促進に向けて業界全体の対応が必要だと考えていることが推測される。

3. 視聴料収入に対して『2年後』には好転するとの見方も

視聴料に関して、『現状』は、「大幅増」が前回(15年5月調査)2.2%から1.1%に減ったが今回も出現している。「増加」は、前回15.6%から16.7%となった。「増加傾向」は合計17.8%で前回と同じであった。「横ばい」は前回46.7%から41.1%と5.6ポイント減、しかし「減少傾向」は合計41.1%で前回35.5%より5.6ポイント増となった。今回「大幅減」との回答はなかったが、「減少」は前回34.4%から41.1%と6.7ポイントあがり、「減少傾向」が強まった結果となっている。

『1年後』の予測では、「増加」が『現状』の「大幅増」「増加」合計と同数の17.8%となっている、「横ばい」は『現状』より4.5ポイント増、「減少」4.4ポイント減となった。『現状』より「横ばい」もしくは「減少」と見る向きはかわらず、引き続き楽観視できないと見る傾向がうかがえる。

『2年後』の予測では、「増加」が『現状』と『1年後』より1.1ポイント増となっているものの、「横ばい」は『1年後』と同ポイントである。「減少」は『1年後』より、1.1ポイント減で、やや上向きに向かうとの傾向がうかがえた。

4. 今後の広告収入について「横ばい」との見方をする事業者が増えた

『現状』については、「増加」「大幅増」合計の減少傾向が続いてきたが、今回調査では、前回より6.7ポイント減少と下げ幅が拡大し20.0%となった。一方、「横ばい」と回答した事業者が前回より8.9ポイントと大きく増え40%を超えた。

「減少」と回答した事業者は14年11月以降大きな変化はない。

『1年後』『2年後』についても、「横ばい」がそれぞれ7.8ポイント、8.9ポイントと大きく増加している。「大幅増」「増加」の合計は、『1年後』17.8%、『2年後』16.7%と前年より大幅に減少し20%を切った。。

「減少」の回答は、『1年後』13.3%、『2年後』11.1%といずれも前年より大きく増加しているが、前回は前々回より大きく下がった反動ともみられる。

5. 「その他事業収入」では現状維持とする見方が増加

『現状』『1年後』『2年後』のいずれにおいても2014年11月以降「減少」と回答する事業者が減り続け、それぞれ2.2%、4.4%、2.2%と5%を下回った。

一方で「増加」「大幅増」の合計も、『現状』27.8%、『1年後』27.8%、『2年後』31.1%といずれも前回調査から減少しており、「横ばい」がそれぞれ50.0%、47.8%、46.7%と半数近くまで増加した。

今後の見通しについては、現状維持とする見方が増えた結果となった。

調 査 の 概 要 に つ い て

1. 調査時期 2015年11月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の有料チャンネル（90チャンネル）
3. 調査方法 webによる回答・回収法
4. 回答回収数 90チャンネル
5. 回答回収率 100%

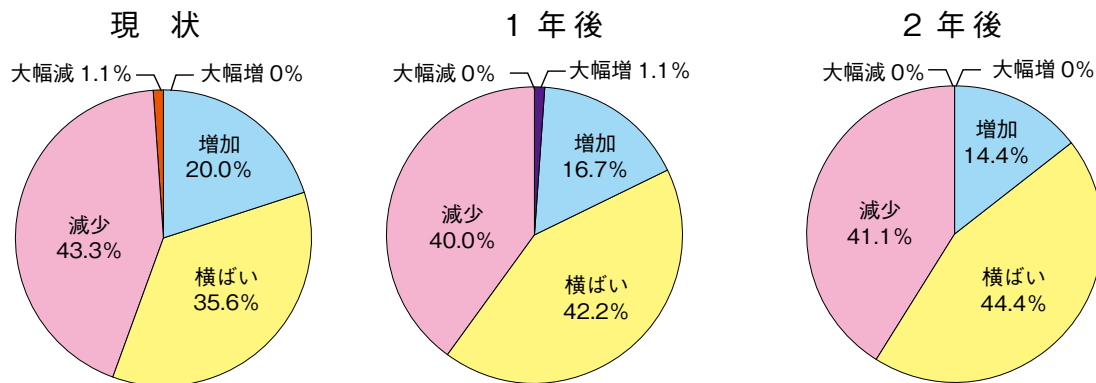
資料

調査結果詳細

1. 自社チャンネルの加入者動向予測

自社チャンネルの全体的な加入者動向としては、『現状』では「減少」(43.3%)が最も多く、続いて「横ばい」(35.6%)「増加」(20.0%)の順となっている。

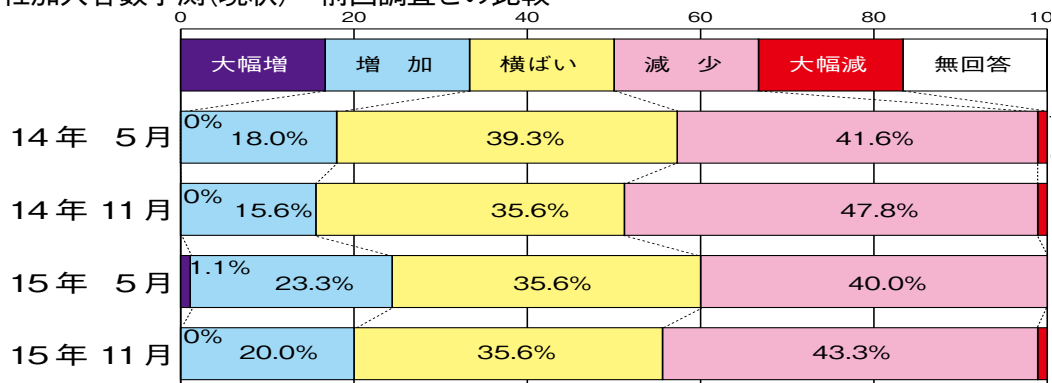
また『1年後』については「横ばい」(42.2%)が最も多く、「減少」(40.0%)、「増加」(16.7%)、『2年後』も「横ばい」(44.4%)、「減少」(41.1%)、「増加」(14.4%)の順となった。「減少」だけで見ると『現状』では43.3%と最も多いものの、『1年後』『2年後』は「横ばい」が「減少」を上回る結果となる一方、「大幅増」「増加」を合わせた「増加傾向」とする回答は『現状』『1年後』『2年後』それぞれ20.0%、17.8%、14.4%と年を追うごとに少なくなっている。



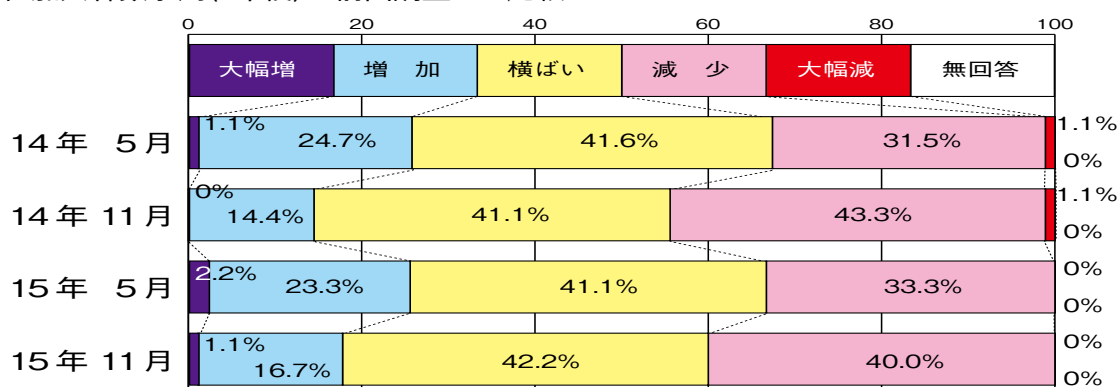
2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

前回調査(2015年5月)では「大幅減」「減少」を合わせた「減少傾向」とする回答が前々回調査(2014年11月)より『現状』『1年後』『2年後』いずれも縮小していたが、今回調査では、再び「減少傾向」が4割以上に拡大、ほぼ前々回並みの結果に逆戻りしてしまっている。また、「大幅増」「増加」を合わせた「増加傾向」についても、自社チャンネルの加入者動向とほぼ連動しており、各事業者が加入促進に向けて業界全体の対応が必要だと考えていることが推測される。

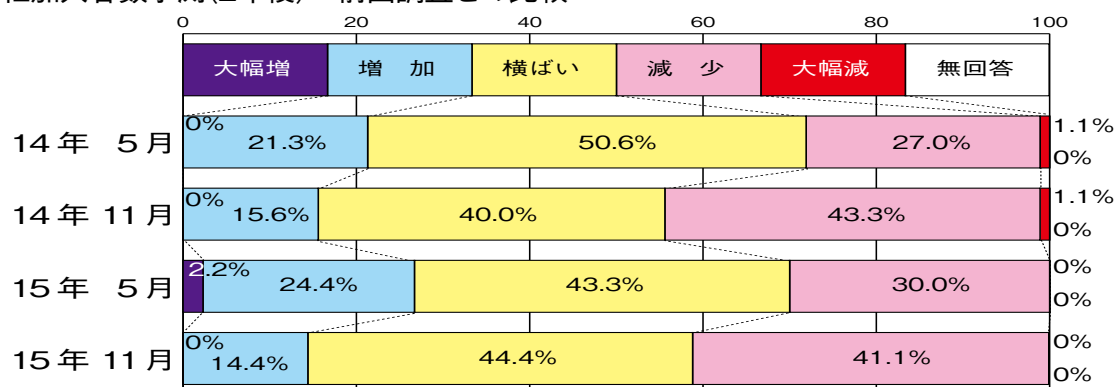
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較

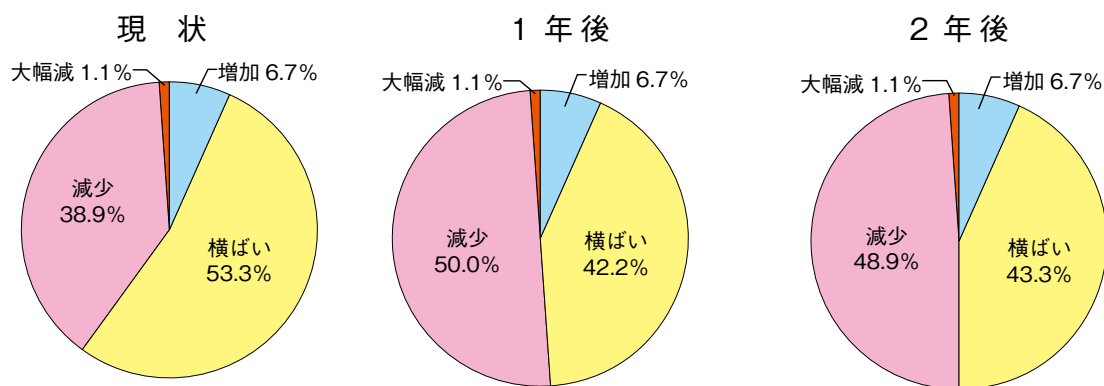


自社加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

『現状』の回答は「横ばい」が最も多く 53.3%、次いで「減少」の 38.9%となっているが、『1年後』は「減少」が 50.0%、「横ばい」が 42.2%、『2年後』も同様に「減少」が 48.9%、「横ばい」が 43.3%と「減少」が「横ばい」を上回る結果となった。また、「増加」の回答は『現状』『1年後』『2年後』いずれも 6.7%と、1割に満たない結果となっている。

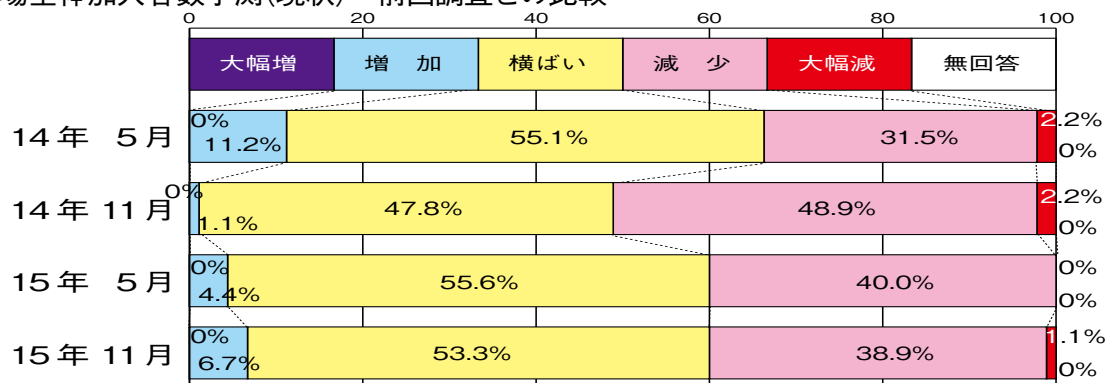


4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

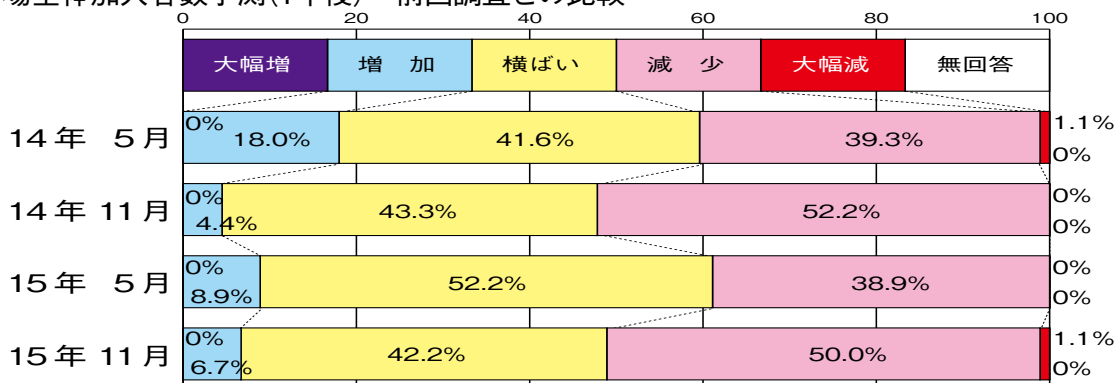
『現状』は前回調査（2015年5月）とほぼ同様の結果となっており、かつ「増加」が2.3ポイント改善する結果となっているものの、『1年後』『2年後』は「大幅減」「減少」を合わせた「減少傾向」がそれぞれ12.2ポイント、8.9ポイント拡大し、再び前々回調査（2014年11月）の水準まで悪化する結果となった。

前回に引き続き、多チャンネル放送全体の加入者動向における「増加」の予測が、自社チャンネルのそれを下回っている。これは、マーケットサイズが「横ばい」または「減少」となる中、各チャンネル単位では「増加」と「減少」に分かれ、少数の「勝ち組」と、“それ以外”の二極化が進行しつつあるものと考えられる。

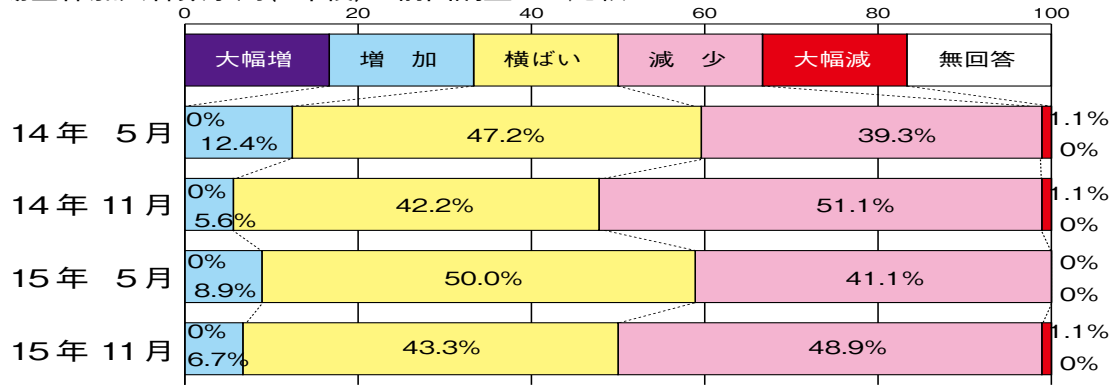
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(2年後)ー前回調査との比較

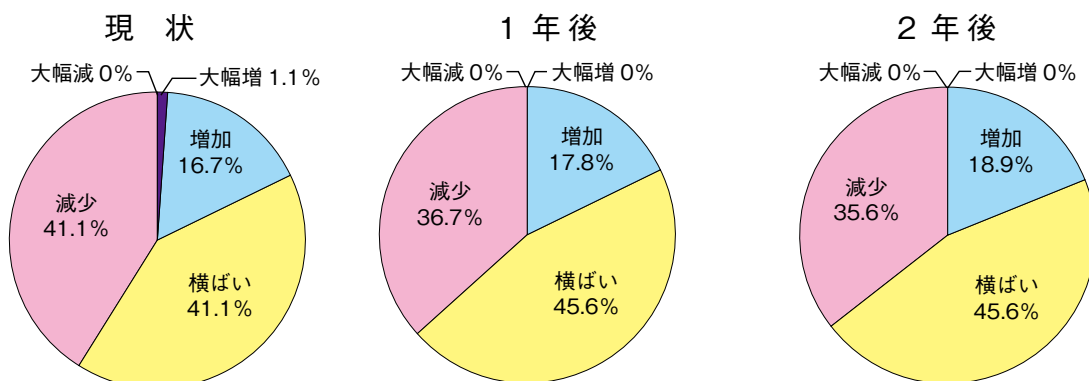


5. 視聴料収入予測

視聴料に関して、『現状』は、「大幅増」が前回（15年5月調査）2.2%から1.1%に減ったが今回も出現している。「増加」は、前回15.6%から16.7%となった。「増加傾向」は合計17.8%で前回と同じであった。「横ばい」は前回46.7%から41.1%と5.6ポイント減、しかし「減少傾向」は合計41.1%で前回35.5%より5.6ポイント増となった。今回「大幅減」との回答はなかったが、「減少」は前回34.4%から41.1%と6.7ポイントあがり、「減少傾向」が強まった結果となっている。

『1年後』の予測では、「増加」が『現状』の「大幅増」「増加」合計と同数の17.8%となっている、「横ばい」は『現状』より4.5ポイント増、「減少」4.4ポイント減となった。『現状』より「横ばい」もしくは「減少」と見る向きはかわらず、引き続き楽観視できないと見る傾向がうかがえる。

『2年後』の予測も、「増加」が『現状』と『1年後』より1.1ポイント増となっているものの、「横ばい」は『1年後』と同ポイントである。「減少」は『1年後』より、1.1ポイント減で、やや上向きに向かうとの傾向がうかがえた。



6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

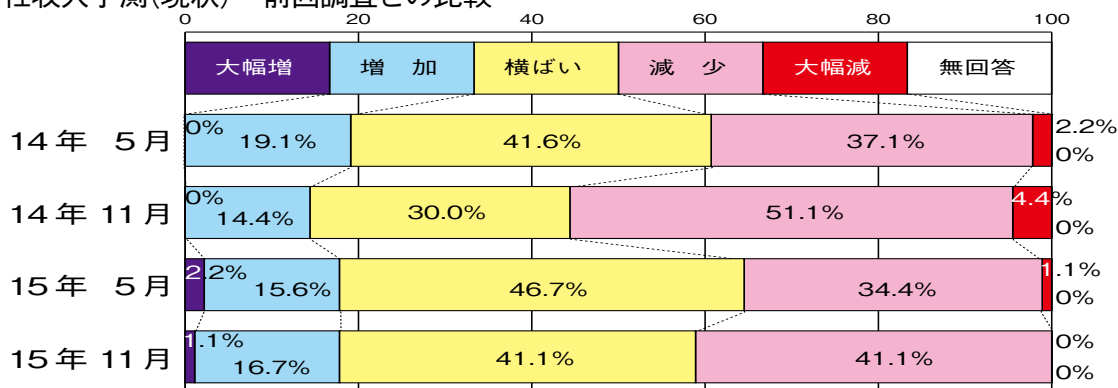
『現状』について、前々回（14年11月調査）・前回（15年5月調査）と比較すると、「増加傾向」と答えた事業者は前々回から前回は増え、今回は同程度（14.4%→17.8%→

17.8%）、一方「減少傾向」との回答が、前々回から前回は減ったが、今回は増えており（55.5%→35.5%→41.4%）、再び「減少傾向」と捉える様相となっている。

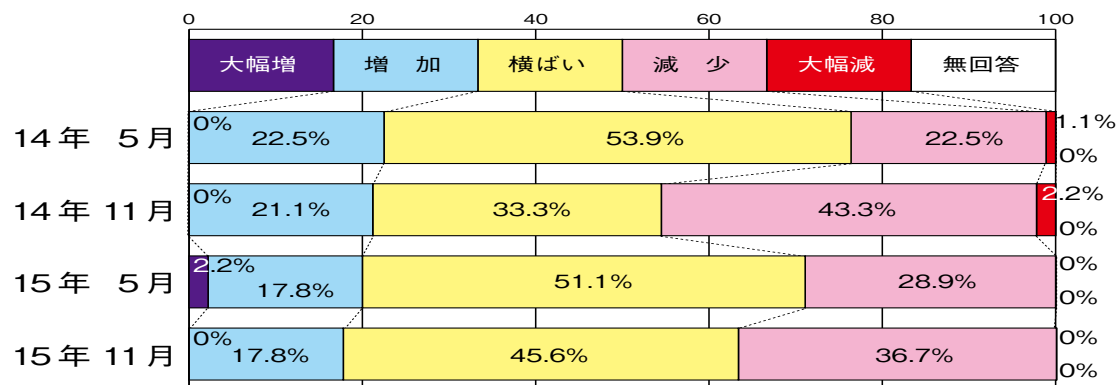
『1年後』の予測では、「増加傾向」という回答は前々回、前回から減っている（21.1%→20.0%→17.8%）、一方「減少傾向」との回答が、こちらも前々回から前回は減ったが、今回は増えており（45.5%→28.9%→36.7%）、「減少傾向」と捉えている。

『2年後』については、「増加傾向」は微減し（20.0%→22.2%→18.9%）、「減少傾向」と

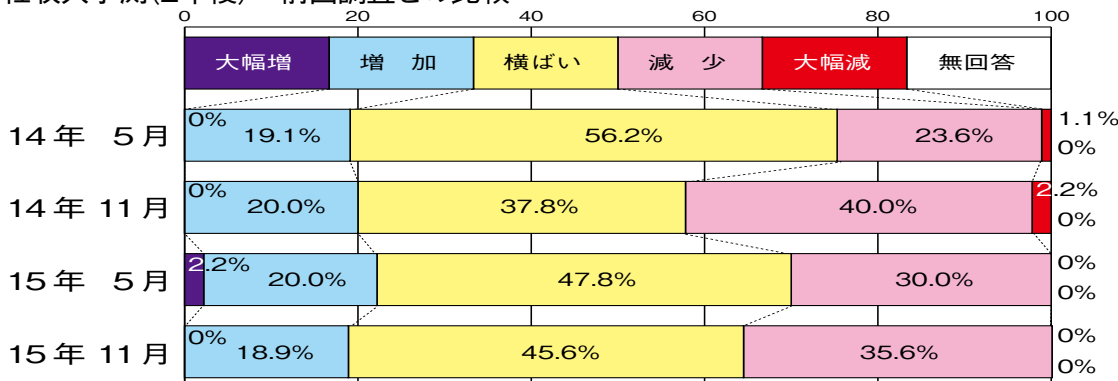
自社収入予測(現状)―前回調査との比較



自社収入予測(1年後)―前回調査との比較



自社収入予測(2年後)―前回調査との比較



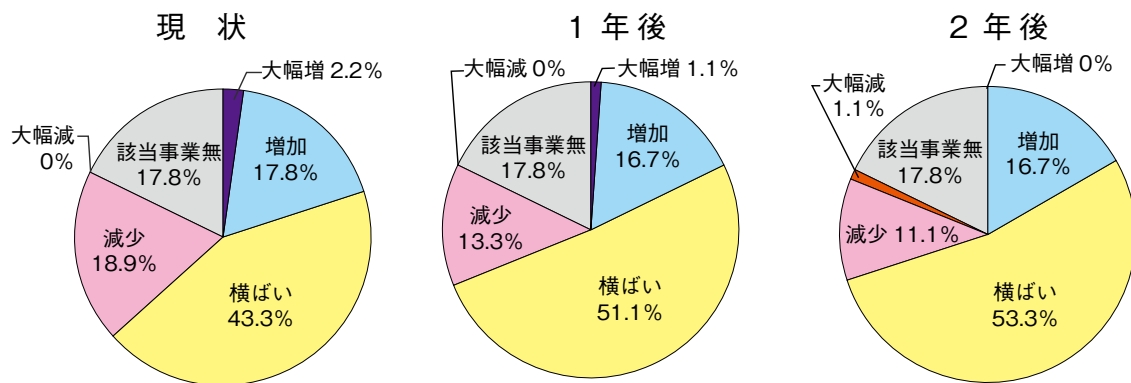
の回答が、こちらも前々回から前回は減ったが、今回増えており(42.2%→30.0%→35.6%)、「減少傾向」と捉えている。

7. 広告収入の動向

『現状』では「横ばい」が43.3%と最も多く、次いで「減少」18.9%と「増加」17.8%が僅差で並んでいる。

「増加」と回答した事業者は、『現状』17.8%『1年後』16.7%、『2年後』16.7%とほぼ変わらない。「減少」は、『現状』18.9%、『1年後』13.3%、『2年後』11.1%と次第に少なくなっている一方、「横ばい」が『現状』43.3%、『1年後』51.1%、『2年後』53.3%と増加していることから、今後の広告収入は現状維持とみる事業者が多い。

なお、「該当事業無」と回答した広告未実施の事業者が17.8%存在していることについても留意されたい。



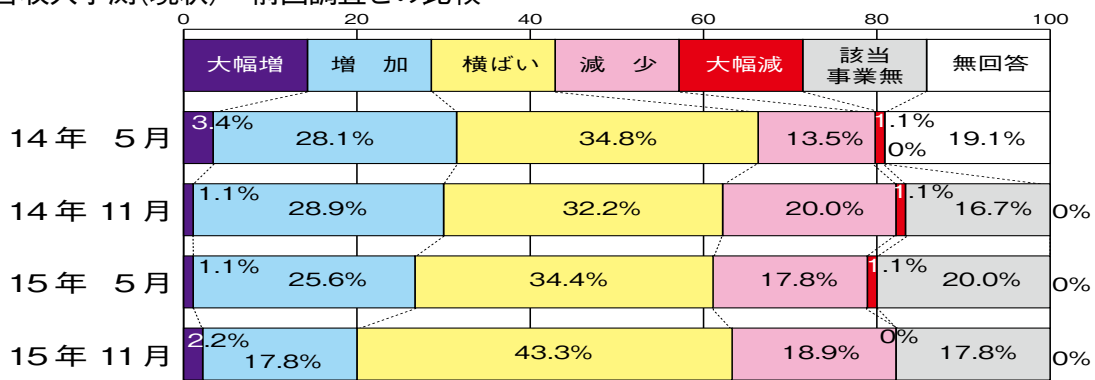
8. 広告収入予測の推移

『現状』については、「増加」「大幅増」合計の減少傾向が続いてきたが、今回調査では、前回より6.7ポイント減少と下げ幅が拡大し20.0%となった。一方、「横ばい」と回答した事業者が前回より8.9ポイントと大きく増え40%を超えた。

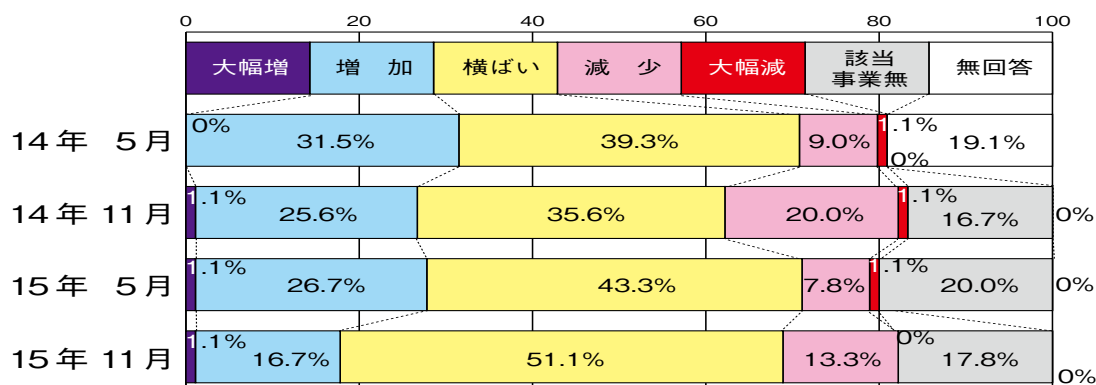
「減少」と回答した事業者は14年11月以降大きな変化はない。

『1年後』『2年後』についても、「横ばい」がそれぞれ7.8ポイント、8.9ポイントと大きく増加している。「大幅増」「増加」の合計は、『1年後』17.8%、『2年後』16.7%と前年より大幅に減少し20%を切った。

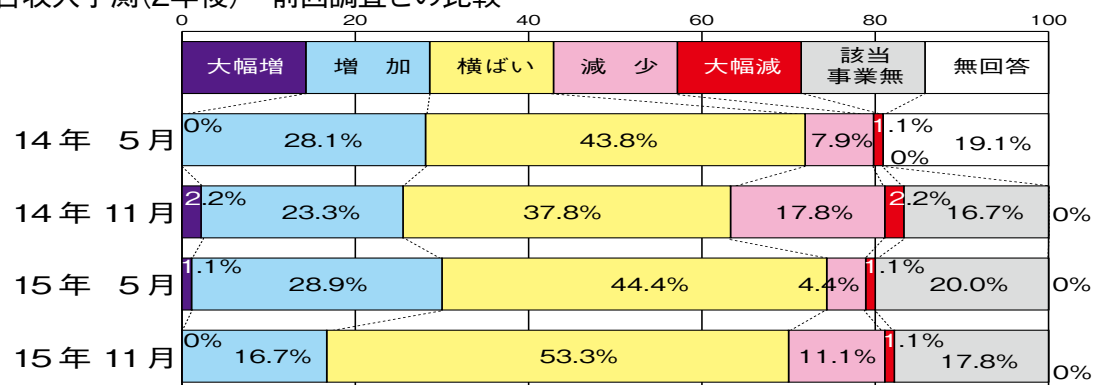
広告収入予測(現状)―前回調査との比較



広告収入予測(1年後)ー前回調査との比較



広告収入予測(2年後)ー前回調査との比較

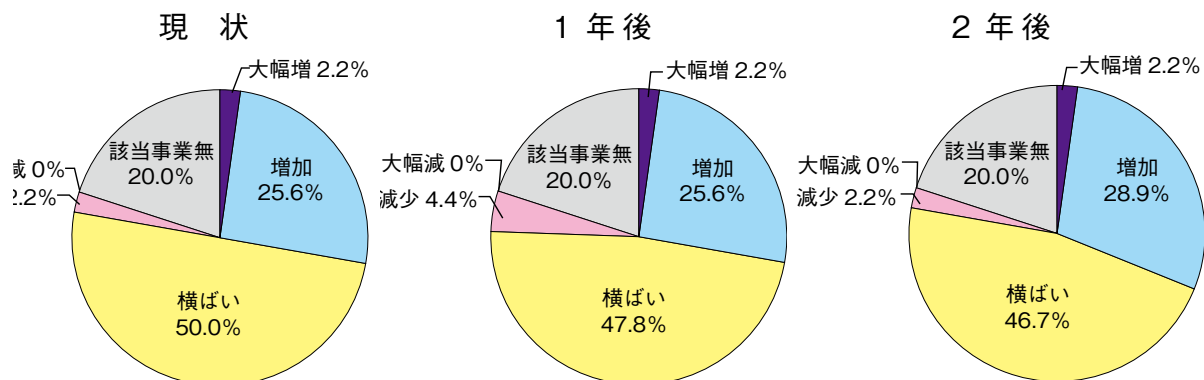


「減少」の回答は、『1年後』13.3%、『2年後』11.1%といずれも前年より大きく増加しているが、前回は前々回より大きく下がった反動ともみられる。

9. その他事業収入予測

『現状』では「横ばい」が50.0%と最も多く、次いで「増加」が25.6%、「減少」が2.2%となっており、「増加」「横ばい」の合計が75.6%となった。

『1年後』『2年後』の予測でも、「増加」「横ばい」の合計は73.4%、75.6%と大きな変化は見られない。



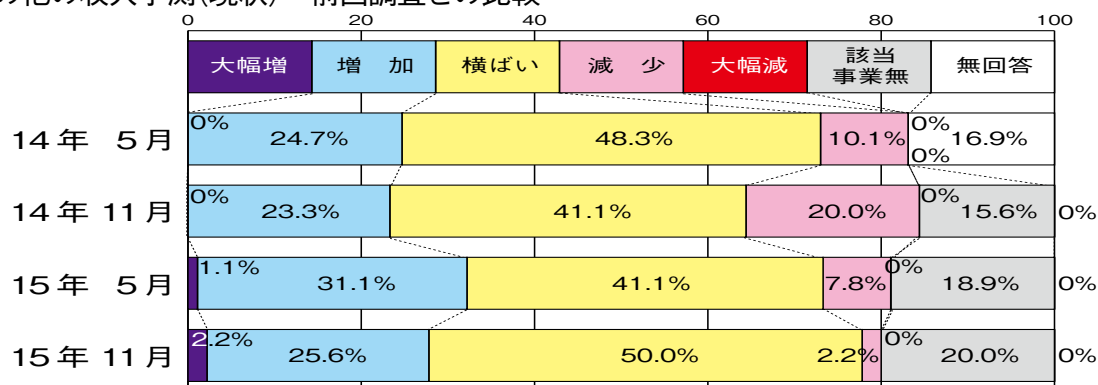
10. その他事業収入予測の推移

『現状』『1年後』『2年後』のいずれにおいても2014年11月以降「減少」と回答する事業者が減り続け、それぞれ2.2%、4.4%、2.2%と5%を下回った。

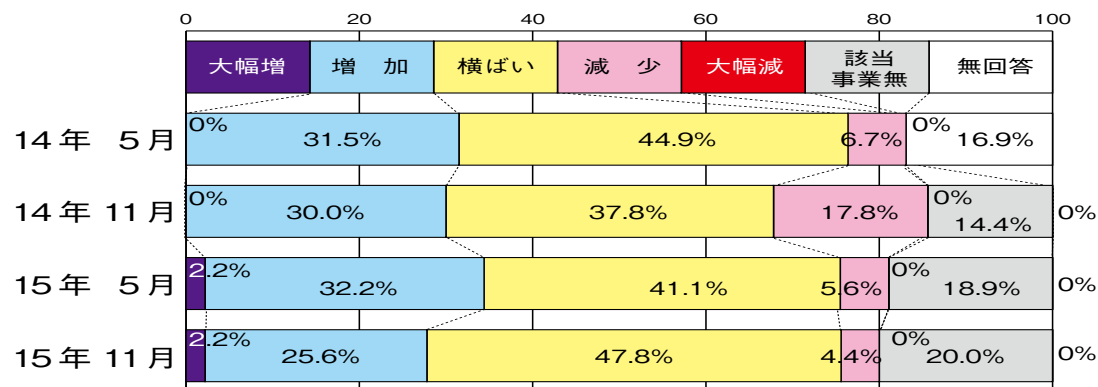
一方で「増加」「大幅増」の合計も、『現状』27.8%、『1年後』27.8%、『2年後』31.1%といずれも前回調査から減少しており、「横ばい」がそれぞれ50.0%、47.8%、46.7%と半数近くまで増加した。

今後の見通しについては、現状維持とする見方が増えた結果となった。

その他の収入予測(現状)―前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)―前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)―前回調査との比較

